

た ま に 、 母 校 を 思 い 出 そ う

岡山白陵 同窓会報

発行：岡山白陵同窓会
〒709-0715 岡山県赤磐市勢力588
TEL:086-995-1255



岡山白陵同窓会
五木道子先生のご像

第21号

平成26年9月22日



Contents

ごあいさつ	2
同窓会便り	3
・第2回「東京碧翠会」 4期 高田佳宜さん 7期 前川芳範さん 15期 加藤由起さん	
第2回岡山白陵同窓会総会案内	6
・最近5年間の大学入試状況	8
・編集後記	

第2回 岡山白陵同窓会総会開催

平成26年11月29日(土)

岡山プラザホテル

詳細は、本号6・7ページへ



会長
大津 正和

MASAKAZU OTSU

ご挨拶

岡山白陵同窓会では、本会報のこの後の部分でも紹介されますように、東京碧翠会での活動が活発化してきています。このことは、同窓会活動にとって、と同時に同窓会会員の皆様にとって、非常に喜ばしいことだと思います。それは、もちろん、何より、多くの同窓会員が東京を中心とした首都圏で活躍しているということを示すことで、同窓会活動の地理的範囲が広がっていることを具体的に示しているからです。さらに、そういう外見なことにとどまらず、内容的な充実をきつともたらしめてくれるだろうと期待できるからでもあります。これまで、母校である岡山白陵高校を活動の中心としてきたために、どうしても岡山県中心の、せいぜい関西圏も含めた範囲での活動となってきました。そうすると、どうしても視点が限られてしまうという弱点ができてきてしまいます。そのように、これまで、ともすれば限られていた視野が、一気に広がるのが期待できるからです。

観察の理論負荷性（あるいは事実の理論負荷性）という言葉があります。この言葉自体は、アメリカの科学哲学者ノーウッド・R・ハンソンが1960年代に提唱したもので、人がある事実を観察し、そのことについて記述するときには、その人がそれまでに身に付けてきた理論、あるいはもっと広く経験・知識の影響を受けないわけにはいかない、ということです。つまり、観察対象である存在や状況はただひとつのものであっても、異なった立場や経験を持つ複数の人々が観察した場合に、それぞれが得る事実の内容は必ずしも一致しないということです。例えば、地動説を信じている天文学者は、天動説を信じている天文学者と、同じ星空を見ている、そこから見いだす天文現象は異なってしまうということです。自然科学の場合は、説明できる範囲が広いなどの理由で、科学者の多数がどの理論を信奉するか否かで、理論間の優劣がつきやすい（その結果、例えば、天動説から地動説へといった劇的な変化が起きることがあり、アメリカの科学史家のトーマス・クーンはこのような変化をパラダイム転換と呼びました）ですが、社会科学や日常の認識では、そのような劇的な変化はあまり起きないのかも知れません。それよりも、違った立場や知識を持つ人々が、同じ対象に対して得た異なる理解を示し合い議論することで、その対象に対する全体としての理解がより深まる（事実へ接近できる）と捉えた方がよいかも知れません。

従って、同窓会活動が、東京にも拠点を広げることで、同窓会が社会やそのなかでの多数の会員の皆様の状況に対する理解をよりいっそう深めることにつながると考えられます。ただし、このような効果は、ただ支部を作れば得られるというものではなく、本部と支部とが、それぞれの立場からの認識や意見を出し合い、継続的に議論をするという努力があってはじめて可能になると思います。このような意味から、東京碧翠会には、これからいっそう活発な活動を進めていってもらいたいと期待しており、役員の皆様はじめ、会員の皆様の積極的なご協力をお願いしたいと思います。もちろん、東京以外でも、我こそはと思われる方は、第2、第3の碧翠会を設立してください。

東京碧翠会が活動を活発化させている一方で、本部活動も負けているわけにはいきません。この11月には、第2回の総会を予定しております。第1回から、かなりインターバルが開いてしまいましたが、今回の総会を今後の同窓会活動活発化への起爆剤とできればと期待しております。会員の皆様には、何かとお忙しいとは思いますが、ぜひ積極的なご参加をお願いしたいと思います。

努力こそ全て

同窓会の皆様には常日頃より本校に対してご理解とご支援をいただいておりますこと感謝申し上げます。

昨年、同窓会の東京支部が発足し、東京碧翠会と命名され、この6月28日には第2回の会合が品川プリンスホテルで開催されましたこと、お喜び申し上げます。東京碧翠会が発足し、岡山白陵同窓会そのものもいよいよ活気づいてきたという感じがしております。今年も東京にお招きをいただき、出席させていただきました。日本の中枢で、年代は様々でしたが、リーダーシップを発揮しながら、努力し、現に活躍している本校の卒業生の様子をつぶさに見るにつけても、心強く、本校生にとって何よりのエールだと感じた次第です。

この4月以来、生徒たちに言っています。「努力こそ全て」と。昨年、4000本安打を達成したニューヨークヤンキースのイチロー選手は40歳を過ぎましたが、「まだやれる」「まだ努力する」と言っています。努力しかないのです。人間は努力するように生まれてきているのです。「天才とは努力する才能を与えられた人だ」という言葉が生まれる所以です。

この春の大学入試の結果ですが、医学部医学科については一定数が出るようになってきました。ある週刊誌の統計によれば、国公立大学医学部医学科合格者占有率（合格者数/卒業生数）は全国8位（ちなみに1位はラサール、5位は灘）とのこと。しかし、東大の数が思うように出ませんでした。何とかしたいと考えています。プロジェクトも立ち上げており議論をしている最中です。同窓生の皆さんがそれぞれの立場で努力されているように、私たちも生徒ともども努力するしかないと思っております。



校長
石原 元秀

MOTOHIDE ISHIHARA

同窓会 Dosou Report 便り

第2回「東京碧翠会」報告

2014年6月28日（土）品川プリンスホテルにて



4期 高田 佳宜さん

(すくすく kids クリニック)

同窓の皆様こんにちは。4期生の高田佳宜と申します。今回この場をお借りして昨年からの活動を開始している東京碧翠会の紹介と第2回東京同窓会の報告をさせていただきます。

東京碧翠会は岡山白陵同窓会の東京支部として平成24年に発足した会です。首都圏に在住している、または在住したことがある岡山白陵卒業生を対象としていますが、卒業生であればどなたでも参加して頂ける会です。

この東京碧翠会の第2回岡山白陵東京同窓会が、6月28日（土）に品川プリンスホテルにおいて開催されました。母校から石原校長先生をはじめ12名の先生が出席して下さい、また3期から36期まで総勢約100名の卒業生が参加されました。午後3時に校長先生のご挨拶から始まった

会はあっという間に2時間が過ぎ、最後に全員で校歌を熱唱したのち1本締めで終了しました。その後2次会、3次会へとすすみ、私もそうでしたが気がつけば終電近くだったという方も多かったのではないのでしょうか。

卒業後何十年も会っていない方や初めて会う方も多い中、このように打ち解けられる雰囲気を持った会です。東京碧翠会の存在は知っているが参加を躊躇されている方や、東京碧翠会の存在自体を知らないという方は、まず公式Facebookページをご覧頂ければと思います。また少しでも興味を持たれましたらこのFacebookページへあるいはメーリングリストへの登録をお願いします。

東京碧翠会初代役員は会長の6期田中祥雅君をはじめ6名の方が引き受けて下さいました。次回役員として僭越ながら会長に私4期の高田が努めさせていただく予定です。また、副会長に7期前川君、事務局長に25期中島君、副事務局長に29期板垣さん、女性代表に9期水野さん、学生代表に34期山本君が就任して下さる予定です。

同窓生の絆がさらに強くなり東京碧翠会が発展できまよう皆様のご協力よろしく申し上げます。

同窓会 Dosou Report 便り

7期 前川芳範さん

(株西武ホールディングス)

懐かしさと新たな出会い

今年の6月末に東京・品川で、東京支部の第2回同窓会が開催され、昨年に続き、参加させていただきました。約30年ぶりにお会いした先生・先輩方と話を始めると、当時のことが鮮明に思い出され、40歳未満の若い方には何の話かわからないと思いますが、「テストの点が悪かったら、お尻をたたかれる“ケツバット”」・「修学旅行の帰りの船での“三木園長の英語の授業”」・「“連帯責任”だと怒られて、みんなで“罰掃”（罰掃除）や“みんなで正座”といった指導（お仕置き？）」といった厳しかった中高校時代の話で、盛り上がりました。最後はポジティブに考え、「いろいろ厳しいことを経験し、ちょっと理不尽？な連帯責任なども経験したので、社会に出てから、いろいろあっても平気なのかもしれないね」と話がまとまりました（笑）。



また、私達の時代は、9割近くが寮生でしたので、本当に「同じ釜の飯を食った」という時代でした。そんなフレーズに甘えて、昨年の同窓会でお会いした4年上の



先輩に、先輩の会社での仕事の取り組みについて教えていただきたいと話したら、「うちの会社に聞きにおいでよ」と関西弁で温かく言っていただきました。後日、ご連絡させていただいたら、完璧なセッティングで、いろいろと教えていただく“新たな出会い”となりました。更に、第1回東京支部の同窓会をきっかけとして、昔々の中学入学時にはすごく大人だったり、怖そうに見えたりした高2・3の先輩方も交えた飲み会が何回か開催されました。中高時代に重なっていない後輩の方々も加わり、当時の先輩後輩では想像できなかった色々な話をする場となり、いつも楽しい時を過ごさせていただきました。

最後になりますが、次期東京支部副会長のお話をいただきましたので、“懐かしさもあり、新たな出会いがある”楽しい同窓会となるよう、精一杯尽力させていただきます所存です。



15期 加藤由起さん

(東京大学分子細胞生物学研究所)

「岡白の同窓会に行きませんか？」数少ない高校時代からの友人のTさんから久しぶりにメールをもらい、詳細を聞かずに「了解」とだけ返信した私。HPを教えてもらい確認すると、同期会ではなく、学校全体の公式同窓会らしい。しかも幹事の方々は2000年卒だという。自分の歳（1993年卒）に軽い目眩を覚えつつ、これ、参加して楽しめるのかしら？ま、アレならTさんと抜け出せばいっかなど不埒な事を考えつつ迎えた当日。いただいた名簿に高3の時、お世話になった志水先生、同期の赤木先生など、見知った名前を見つけ、ワクワクすると同時に、当時、若々しく格好よかった志水先生が見る影も無くなっていたら、衝撃



のあまり愛想笑いも出来ないかもしれないけど、社会人としてそれじゃいかんと気を引き締めながら入り口を見てた時、入ってきた人を見て「あ、たかビーじゃん」（すみません、当時、そう呼ばせて頂いておりました）。その後も後藤先生、森本先生が、当時と本当にお変わりなく入って来られたのを見て、20年の月日とは？と1人で禅問答をしておりました。校長先生のお話の後、歓談の時に同期生や先生方といろいろとお話をさせていただき、率直な感想は「良い高校だったんだなあ」と言うことでした。当時の私は、自分の殻に閉じこもるのに精一杯で周りを見渡す余裕がありませんでした。でも、あれから20年以上経ち、この歳になって、恩師、またあまり交流がなかった同窓生と楽しく会話できるのが、非常にうれしく、またいい機会を与えて下さった事、ありがたく思います。いろいろな職種で活躍されて、魅力的な人が本当に多い事！本当に楽しいひと時を過ごさせて頂きました。

そして最後にはなりますが、今回の同窓会を企画、実行して下さった幹事の皆様方に厚く御礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

第2回 岡山白陵



岡山白陵同窓会
副会長

大西 修
(1期生)

会うのが一番、二番は…

「会うのが一番」。同窓会への参加呼びかけを実行委員会から依頼され、最初に思い浮かんだのがこの言葉。実はJR東海がかつてCMで使っていたキャッチコピーです。25年以上も昔になるのでパクリと気づいた方は少ないかもしれませんが…。

親睦、絆、交流など同窓会の目的や楽しみを考えたら、いろんな言葉が出てくるものの結局は「会う」ことに尽きますよね。最近ではネットで簡単に繋がりが出来る時代。便利なのは確かだけれど会話の無い画面上でのやりとりはいかにも味気無い。「食ベログ」読んで食べた気にならないのと同じ。久しぶりに会う友人や先生はきっと随分変わっているはず。生の笑顔を見て、生の声を聴いて、リアルな雰囲気を感じてほしい。

話は戻りますが、人気シリーズとなった先のCMはYou Tubeで見られます。イブの夜、彼は来るのか来ないのか…。ホームで待つ若かりし深津絵里の切ない表情を山下達郎の曲が引き立てる…。携帯もスマホも無い時代ならではの名シーンです。余談ですが今度の同窓会でこうしたスリル感を味わうのも一興かもしれません。しばらくは同級生との連絡無し。「スマホは二番」ということで!(^^)!



写真は第1回同窓会総会より



同窓会総会案内

会場 岡山プラザホテル 4F 鶴鳴の間
住所：〒703-8256 岡山市中区浜2-3-12
TEL：(086)272-1201 FAX：(086)273-1557



日時 平成26年11月29日(土)
総会 18:00～

会費 社会人 5,000円 学生 3,000円

申込締切 11月15日

申込方法 同封の振込用紙にてお申し込み下さい。なお用紙は学生の方用と社会人の方用とに分かれています。適宜、ご利用下さい。

※振込をもって参加確定となりますので、振込忘れの無いようにお願いします。

出席される先生については決定次第同窓会のホームページに掲載いたします

《お問合せ先》
小野高速印刷(株)

電話：0120-66-7754 (平日9:00～12:00 13:00～16:30)

FAX: 0120-81-2299

E-mail: meibo@dousou.info

必ず学校名をお書き下さい

最近5年間の大学入試状況

国公立大学	H26	H25	H24	H23	H22
東京大学	6	18	4	12	26
京都大学	5	0	4	8	7
大阪大学	6	5	11	11	6
神戸大学	4	4	4	7	4
九州大学	2	8	5	5	6
岡山大学	16	26	14	11	18
北海道大学	1	2	3	1	3
東北大学	1	1	1	5	2
東京工業大学	0	1	1	3	1
広島大学	5	5	1	3	2
山口大学	3	3	3	1	1
鳥取大学	4	6	0	5	1
香川大学	12	5	2	6	8
他国公立大学	49	33	49	48	44
国公立大学計	114	117	102	126	129
(内 医学部医学科)	(40)	(39)	(41)	(46)	(48)

私立大学	H26	H25	H24	H23	H22
早稲田大学	17	33	26	14	25
慶應大学	14	14	14	20	22
中央大学	6	14	15	9	11
明治大学	6	3	10	11	3
東京理科大学	15	12	7	9	9
関西学院大学	15	8	11	10	23
関西大学	10	1	5	2	6
同志社大学	14	16	27	15	20
立命館大学	20	15	16	8	11
大阪医科大学	1	5	6	6	5
関西医科大学	2	2	1	6	9
兵庫医科大学	3	2	6	4	6
他私立大学	84	71	71	79	64
私立大学計	207	196	215	183	214
(内 医学部)	(23)	(23)	(35)	(40)	(53)
卒業生数	153	182	167	171	170

★ 原稿募集 ★

ご紹介
下さい!

事務局では、今後も会員の方々の
いろいろな情報を掲載し、会員相互
の情報交換の場にしていきます。

- ・ 同期会、クラス会、OB会の報告
- ・ 旅行記、修学旅行、入学式、高校時代の思い出
- ・ 卒業生のご活躍の方々、お店の紹介
- ・ 同期会等の開催告知 etc...



まずは、同窓会事務局まで、郵送又はメールで
お寄せ下さい。尚、紙面の都合上、掲載できない
場合もございますので、ご了承下さい。

岡山白陵同窓会

〒709-0715 岡山県赤磐市勢力588 TEL: 086-995-1255

学校ホームページ <http://www.okahaku.ed.jp/> 同窓会ホームページ <http://www.okahaku.ed.jp/dk>E-mail dousoukai@okahaku.ed.jp

編集

Editor's note

後記

今年、4月に同窓会の校内幹事として、新戦力をお
迎えました。今回はその方の自己紹介を、編集後記
とさせていただきます。

「初めまして、もしくはお久しぶりです。27期生の
吉田真之です。ご縁があり、平成26年4月より岡山白
陵に数学科の教員としてお世話になっております。在
学中の僕をご存じの方は、「あいつが教員とか……岡
山白陵も終わったな……」等と思われているかもしれ
ませんね(笑)当時の自分のことは棚に上げまくって、
「勉強しろ、授業中は集中して話を聞け、宿題ださん
とかありえんで、不要物品はもってくん」みたいな
話をしており、お世話になった先生方から「お前が言
うな」というお言葉を頂戴しております。ただ、今の

自分があるのも、岡山白陵で厳しく指導して頂いたお
かげであり、みなさまのように様々な世界のリーダー
として活躍することのできる人間を育成していくこと
で、少しずつ恩返しをしていけたらと考えております。

岡山白陵に入職したことで、当時の同級生と連絡を
とったり、再会することができたり等、嬉しい出来事
もありました。是非また同窓会で、同級生や先輩、後
輩、先生方と昔話を花を咲かせ、卒業生同士の絆を深
めあっていけたらと思います。」

これからますますパワーアップして、学校を、そし
て同窓会をサポートしていきます。よろしくお願いい
たします。今回も執筆・編集など、沢山の方にお世話
になりました。この場をお借りし、お礼申し上げます。